

京都府行財政改革支援等特別交付金 自己評価調書

団体名 京田辺市

2. 平成26年度 行財政改革支援等特別交付金事業の個別評価について

支援区分		事業名・実施項目							
行財政改革推進枠		松井ヶ丘小学校仮設校舎整備事業							
事業着手前									
課題・現状	宅地整備が続く本市北部の山手地区の小学校では、急激な児童の増加が見込まれ、ピークとなる平成29年度には6～7教室が不足すると推計される状況の中、平成33年度以降児童数は減少に転じると推計される。								
事業概要	近い将来の児童減少が推測できる中、現状の教室不足を補うため、仮設校舎により対応するもの。								
期待される事業効果等	宅地整備が続く本市北部の山手地区の小学校では、急激な児童の増加が見込まれ、ピークとなる平成29年度には6～7教室が不足すると推計されるが、平成33年度以降児童数は減少に転じることを考慮し、仮設校舎により対応することで、歳出総額の抑制、ピークカットによる負担の平準化を図るもの。								
事業実績									
取組状況	児童の増加による教室不足を仮設校舎により対応した。								
主な実績数値 (出来高数値等)	同敷地内の用地整備や遊具の移設等を行い、リースによる新たな仮設校舎を整備することで、教室不足を補った。								
期待される事業効果等 に対する達成状況	達成	(左の理由)	新たに同程度の施設を整備する費用と比較し、大きな歳出抑制となった。						
行革効果									
行革効果の考え方	<p>【仮設対応】 児童増による教室不足を仮設校舎により対応することによる経費 初年度: 整備経費17,558千円(修繕16,381千円+リース1ヶ月分1,177千円) 次年度以降: 校舎リース料14,124千円</p> <p>【増築対応】 同程度の施設を新たに新設する経費: 238,000千円</p>								
年度	H26	H27	H28	H29	H30				合計
行革前(a)	238,000								238,000
行革後(b)	17,558	14,124	14,124	14,124	14,124				74,054
行革効果(a)-(b)	220,442	-14,124	-14,124	-14,124	-14,124				163,946